

『初めの愛に立ち返れ！』

'21/01/01(元旦礼拝)

聖書箇所:ヨハネの黙示録 2章 1-5節(新約 p.477)

皆さん、明けましておめでとうございます。私たちは、ここでまた、こうして、新しい年を迎えることができたわけですが、まずは、そのことを主に感謝していきたいと思えます。…と言うのは、みことばに、こうあるからです。『主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。』(Ⅱペテロ 3:9)⇒天の神様は、今日(こんにち)のような、罪や欲望が氾濫した世の中であっても、なお、忍耐の限りを尽くしてくださって…、再臨の約束を1日、また1日と遅らせてくださっています。…と言うのは、真の神様は、たった1人であっても滅びることを願ってはおられないからです。天の神様が忍耐をしてくださったから、私も…、また、皆さんも救われることができたのです。神様が忍耐してくださったから…、私たちは、ここで、こうして新年を迎えることができたのです！

命題: 私たちが、『初めの愛』に立ち返るための手段とは？

しかし、皆さんは、どうですか？自分は、この神様の恵みによって救われた！あのイエス様の十字架は、自分のためであった…という、イエス様を信じた直後に持っていた、あの感動や感謝の思いなどを、そっくりそのまま、継続して持っている！と言い切ることができるでしょうか？イエス様を信じて救われた…、その時の情熱は、何年経った今も、ほんの少しも変わることなく、ずーっと変わらずに、私の中で燃え続けている！と断言できるでしょうか？

残念ながら、私たち人間の記憶や感情というものは移ろい易いものです。そのような私たちが、同じ感情や情熱を、ずっと変わらずに維持し続けることは、かなり難しいことなのではないでしょうか？…でも、だからこそ、天の神様は、今日のみことばを私たちに与えてくださったのではないのでしょうか？今日、私たちは、黙示録 2:1-5のみことばを通して、移ろい易い私たちが、もう1度、初めに持っていたような愛を取り戻すための方法について学んでいきたいと思えます。そうすることによって、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、過去、自分が救われた時に持っていたような感動と情熱を取り戻してくださいことを願います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばである、黙示録 2:1-5をお開きくださいますようお願いいたします。

- 1 エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方』と言われる。
- 2 「わたしは、あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。
- 3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。
- 4 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。
- 5 それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。

I・自分自身が犯した、過ちや問題点を認める！

今読んだ部分のみことばが、まず、最初に教えてくれているポイントは、**私たちが、自分自身の犯した、**

過ちや問題点を“認める”！ということでありませす。まずは、そのことを皆さんと一緒に確認をしていきたいと思えます。

実はここ、黙示録 2-3 章には、7つの教会に関する特徴とアドバイスとが語られてあります。この、『**エペソにある教会…**』と言いますのは、当時、アジアにあった教会で…、1番最初に、アポロという人物がやって来て…、その次に、使徒パウロが第2次伝道旅行の時にやって来て、爆発的に福音が広がった町の1つであります。このエペソの町は、東にあったアジアと西のローマとを結ぶ場所にあつたため、非常に貿易が盛んで、当時からたくさんの人たちで賑わっておりました。使徒 19章を見てみますと、パウロたちの伝道のおかげもあって、「周辺の者が皆、主のことばを聞いた…」とあります。まあ、そういったようなわけで、このエペソの教会というのは、非常に、伝道熱心な教会であつたと言っても良いのかも知れませす…。

まず、ここ1節に登場している、『**右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方…**』と言いますのは、直前の黙示録 1章を見るとわかります通り、イエス・キリストのことを指しています。しかも、この**イエス様は、何と、天にあつても、偉大な権威で満たされていて…、天にあつても、大切な働きをされているのです！**そうです！このお方こそは、**真の神であられ…、すべての者を裁かれるお方なのです！**…そのイエス様がエペソ教会に対して、こう、おっしゃられておられます、『**2 「わたしは、あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。**』⇒これは、当時のエペソ教会に対する称賛のことばであり…、教会の功績であります。ここに、『**労苦と忍耐…**』と書かれてありますように、この当時、エペソの教会もまた、たくさん迫害を経験して…、彼らは、その中でも、労苦と忍耐を尽くして…、立派に信仰を守り通したであろうことがわかります。

また、2節の後半に、『**…また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いた…**』と書かれてあります。実は、使徒 20章には、パウロがミレトから、エペソの長老たちを呼んで、『**狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、群れを荒らし回ること…**』や、教会の『**中からも、いろいろな曲がつたことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こる…**』というようなことを、あらかじめ警告をしてくれています。

実際、エペソの教会は、パウロのアドバイスもあつてか、偽教師や偽使徒たちのことを、無事、教会から追い出すことができたようです。恐らく、このみことばは、そういったことを教えてくれているのだと思われませす。つまり、エペソの教会とは、決して、未成熟な弱い教会ではなく…、しっかりと、間違つた教えにも対処できるような、むしろ、“模範的な教会であつた”わけです。

しかし、今日のみことばは、そういったことを私たちに教えようとしてくれているではありません。今日のみことばの 4 節に書かれてありますように、残念ながら、そのエペソ教会には、『**非難すべきこと**』があつたのです。それは、『**初めの愛から離れてしまった…**』という点であります。ここで言われているところの、『**初めの(愛)**』という言葉(πρώτος)は、「時間や位置、あるいは、重要性などの…、第1番目のもの」を指す言葉なのですが、この場合は、どう考えても、私たちがイエス様を信じた当初に持っていたはずの、神様に対する、感激や感動を伴つた愛を指している！と思われませす。

救われているクリスチャンなら誰でも、「**イエス様が私のような者を救うために、自分の身代わりとなつて、十字架上で磔になつて、死んでくださった…**」ということを知つて、感激や感動を覚えない者は居ないと思えます。そうでないのでしょうか？

実は、エペソ書を見てみますと、使徒パウロが、エペソ教会を含む小アジアのクリスチャンたちを指して、こんな風に言っている箇所があります、『**愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがた…**』(エペソ

3:17)と…。また、それだけではありません。別の個所でも、彼らが、『主イエスに対する…信仰と、すべての聖徒に対する愛』(エペソ 1:15-16)とを持っている！ということを確認して、感謝を捧げているということも記されています。

ところが！そのエペソ教会が、『初めの愛から離れてしまった…』と、イエス様は非難しておられるわけです。あんなにも、模範的であったエペソ教会のクリスチャンたちが！です。例えば、1 コリント 13 章では、こう教えられています、『1 たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。』って…。⇒その通りですよ？コリント教会に限らず、神様は、すべてのクリスチャンたちに対して…。また、すべての信仰者たちに対して、『愛』を実践すべきことを願っておられるし…。エペソの教会は、そういった点でも模範的な教会だったので。かつては…。

しかし、聖書のみことばは、同時に、こうも教えてくれています。ヤコブ 2:8-11、『8 もし、ほんとうにあなたがたが、聖書に従って、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という最高の律法を守るなら、あなたがたの行いはつばです。9 しかし、もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます。10 律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。11 なぜなら、「姦淫してはならない」と言われた方は、「殺してはならない」とも言われたからです。そこで、姦淫しなくても人殺しをすれば、あなたは律法の違反者となったのです。』

⇒このみことばが、私たちに教えてくれていますことは…。神様が私たちに1番願っておられることは、私たちが自分の隣人を自分自身と同じように愛すること…。つまり、愛を実践することです。しかし、もし私たちが人をえこひいきしたりして…。神の律法をほんの少しでも破ってしまうなら、私たちは落伍者となってしまいます。…と言うのも、神様は私たちに完全な清さを要求されるからです。聖い神様の前に、80点も、90点も関係ありません。100点満点以外は皆、『律法の違反者…』なのです。

また、聖書のみことばは、こうも教えてくれています。1ヨハネ 1:8-10、『8 もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。10 もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにあります。』⇒私たちに必要なことは、まず、神様の前に謙虚になって、自分の弱さや過ちを認めることではないでしょうか？この地上で、誰一人、完全な人間など居りません。それは、つまり、愛を実践することにおいても…。神の律法を実践することにおいても、皆、そうです！私たちに必要なことは、素直に、自分の罪深さや弱さを認めて、神様の前にへりくだることではないでしょうか？

今読んだ、1ヨハネ 1:9 が教えてくれているように、私たちが自分の罪や弱さを認めるところから、神様は、私たちに働いてくださるのです…。ひょっとしたら、皆さんは、「正月早々、縁起が悪い…」と思われるかも知れませんが、神様の恵みや祝福は、私たちが自分自身の罪の問題に気づき…。それを悔い改めるところから始まっていくのではないのでしょうか？どうぞ、神様の前に、自分の見栄やプライドを捨てて…。素直な気持ちで、自分自身の罪の問題や問題点と向き合っていただきたいと思います…。

II・その過ちや問題点を、真摯に「悔い改め」る！

私たちが、まずは、自分の犯した過ちや問題点に気付くことができたら…。その次に必要なステップは、“悔い改め”であります。ここで言われている、『悔い改め』とは、前回の礼拝で学んだように、私たちが真の神様を信じ、イエス様を受け入れた時の…。人生において、たった1度だけ行なう、「悔い改め」とは違います。今日のみことばで言われているところの悔い改めとは、生き方を変えるための「悔い改め」ではなく…。それまでの生き方を修正する…。または、元へ戻すための『悔い改め』であります。…しかし、いずれの悔い改めであっても、『悔い改め』の重要な要素である、「方向転換」ということに、そう大きな違いはありません。

ここで、『悔い改めて…』と言われている表現には、「アオリスト命令法」と言われる文法が使われていて…。それは、「直ちに悔い改める！」べきことを勧めています。罪を正すのは、一刻でも早い方が良いのです。本来、「悔い改め」が180度の方向転換を表すように、私たちの悔い改めも、中途半端であってはなりません。しっかりと！神の前に、自分の問題や罪を悔い改めないといけないのです。

今日のみことばで、イエス様が勧めてくださっているのは、まず、その、『初めの愛から離れてしまった』原因と言うか…。その問題を探求しなさい！ということです。一体いつ、自分は道を間違ったのか？どのような問題があったのか？ということ、冷静に見極めて探し出すことなのです。ひょっとしたら、私たちは、ある時に、罪を軽く考えて…。罪を犯し始めたのかも知れません。あるいは、神様に対する信頼や感謝を無くしてしまったのかも知れません。あるいはまた、自分の願いや期待通りに物事が運ぶことばかりを期待し過ぎたために、神様に失望してしまったのかも知れません。私たちは、そういった自分の犯した間違いや問題点をしっかりと探し出す必要があるのです！

良いですか、皆さん。『初めの愛から離れてしま(う)』ことも…。私たちが何かの霊的なスランプに陥ることも、すべての原因は、神様の側ではなく…。私たちにあります。だって、みことばは、はっきりと、こう教えてくれているからです。ローマ 8:32-39、『32 私たちすべてのために、ご自分の御子をさへ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあります。』⇒こんな風に言われているというのは、私たちは、すぐに神様の恵みや約束を疑ってしまいがちだからです。

『33 神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていただくのです。』⇒私たちは、ある時に、神様の赦しや救いの恵みを疑ってしまうことがあります。「本当に、神様は、信仰だけで…。私たちの罪を赦して、救ってくださるのか？本当に神はいるのか？救いはあるのか？」って…。悪魔は、そういったところを責めてきます。私たちクリスチャンの罪や弱いところを、サタンは突いてくるのです。しかし、イエス様は、いつもいつも、私たちのことをとりなしていただくのです(ヘブル 7:25)。

『35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。37 しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。』⇒皆さん…。神様の愛が、私たちが離れることは決してありません。…天の神様は、いつも、私たちのことを愛して、常に最善のことをなして下さっているのです！でも、実際に有り得るのは、私やあなたの側で、神様から離れていってしまうことです。ひょっとしたら、神様の愛のすぐ横に居ながら…。別の方向を向いて、神様の愛を疑ってしまっているのかも知れません。

Ⅲ・その上で、正しい行ないをする！

そのような間違いや問題は、誰にでも起こり得ます…。でも、そういった時に必要なのは、自分の間違いを探し、そのことを悔い改めた後…、つまり、神様に赦していただいた後に、正しい“行ない”をしていく！ということですよ。

ひょっとしたら、皆さんの中には、私が、ここで、「正しい行ないをする！」なんてことを言いますと、「いえ、本物の信仰というべきものは、私たちの行ないや私たちの捧げ物などではなく…、私たちの内側にあるような感情や平安などといったような、もっと内面的なものではないのか？」と言われる方が、いらっしゃるかも知れません。でも、そうではありません。この聖書が教える、本物の信仰には、間違いなく、正しい行ないが伴うのです！

だって、例えば、エペソ 2:8-10 でも、『8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』と教えるじゃないですか！

皆さん、覚えてくださっていますか？その昔、バプテスマのヨハネが、自分のところへ来て、バプテスマを受けようとした者たちがやって来た時、何と言いましたか？⇒『まむしのすえたち！』という言葉だったじゃないですか？でも、一体、それは、どうしてですか？それは…、そこに、大勢のパリサイ人たちが来ていたからです。彼らは、肝心の心の中を清めようとはせずに…、ただ、バプテスマだけを受けようとしたのです。だから、その時、バプテスマのヨハネは、『それならそれで、悔い改めにふさわしい実を結びなさい！』(マタイ 3:8a)と言って、正しい悔い改めに応じた、正しい行いをすべきことを教えてくれたのです。

そういったことは、イエス様もまた、同じでありました。皆さん、覚えてくださっていますか？イエス様は、ある時、パリサイ人たちのことを指して、こんなことをおっしゃられました。『だが、わざわざ。パリサイ人。おまえたちは、はっか、うん香(こう)、あらゆる野菜などの十分の一を納めているが、公義と神への愛はなおざりにしています。これこそしなければならぬことです。ただし、十分の一もなおざりにしてはけません。』(ルカ 11:42)って…。⇒この時、イエス様が教えてくださったように、私たちの優先順位は、まず、神様に対する愛であり、神様の前に正しいこととあります。そして、その次に、捧げ物などの私たちの行いなどがあるわけです。

この当時のパリサイ人たちが、イエス様によって批判されたのは、彼らが、その心の中を無視して…、表面的な行ないばかりを優先したからです。そうだったでしょ？彼らの優先順位は、まずは、捧げ物であり…、また、行ないであつたわけで…、それらに対して、神様に対する愛や公義などは、二の次、三の次だったわけで、イエス様はそういったことを非難されたのです。

Ⅰサムエル記 16:7e、『…人はうわべを見るが、【主】は心を見る。』ということばは、あまりにも有名です。天の神様は、私たちが捧げる捧げ物や行ない以上に…、私たちの心の中、つまり、動機を御覧になっておられるのです！決して、私たちの神様は、「私たちの行ないは、どうでも良い…」とは、おっしゃいませんでした。そうではなくて、優先順位が大切なのです。私たちの行ない以上に…、また、皆さんが捧げる捧げ物以上に…、どんな動機で、それをしているのか？ということが大切なのです。私たちの問題は、そういった肝心の動機を正そうとしないで、表面的な行ないだけを変えようとするから、問題が解決しない

のです。そうではないでしょうか？

皆さんは、信仰を持たれた当初、どんな思いでいらっしゃいましたか？…思い出せますか？恐らく、皆さんが、信仰を持って間もない時、皆さんは、「神様のことをもっと知りたい…。もっと、みことばを学びたい…。もっと、多くの方に福音を伝えたい…。神様のために何かしたい…」そう考えて、様々なことをされませんでしたか？⇒「そういったことを継続していきなさい！」と、神はおっしゃるのです。何かの打算とか、周りの目とか、間違った目的などではなくて…。

もし、そうでなければ…、今日のみことばには、こうあります、『もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。』⇒これは、私たちから、『燭台』、つまり…、明かり(=光)が外される…、言い換えれば、地の塩、世の光としての力を無くしてしまう…、クリスチャンとしての影響力を失くしてしまう、という意味だと思われます。…もしも、私たちが、こんな風になってしまったら、非常に悲しいですよ？…でも、私たちが、このみことばが教えてくれている警告を無視して、しっかりと自分の罪を悔い改めて、初めの愛に立ち返ることをしないならば、そのようになってしまう可能性があるのです！

今日のみことばのすぐ後、この同じ文脈で語られてある 7 節に、こう記されています。『耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』って…。ここで言われている『諸教会』という表現には複数形が使われているので、この表現は、エペソ教会だけを指すのではなく、すべての時代の…、すべての教会を指していると考えべきです。神が託してくださった、この新しい 2021 年を祝福されたものとしていくために…、どうぞ、1年の初めの日に、ご自分の信仰を…、神様への愛を吟味していただいて…、『初めの愛』に立ち返って、この1年を歩んでいきましょう！最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。